# 第 18 回国際視野学会を主催して

松本長太

## １．はじめに

国際視野学会 IPS（International Perimetric Society Meeting）は、1974 年にフランス、マルセイユで第 1 回が開催されて以来、34 年間にわたり 2 年ごとに各国持ち回りで開催されている視野と画像に関する国際学会です。世界中の視野や画像に関わる研究者がお互い共通するテーマで納得するまで思う存分議論を交わし合い、さらに、主催国の趣向を凝らした社交行事を通し、お互いの親善を深め合う、そんな中身のぎっしり詰まった、とても有意義で楽しい国際学会です。私も 1990 年にスウェーデンのマルメで開催された第 9 回から、毎回参加、発表させていただき、世界のこの分野の第一線の先生方から多くのことを学ばせていただきました。

日本では、今までに 1978 年、故松尾冶亘先生が東京で第 3 回を主催され、また、1992 年に北澤克明先生が京都で第 10 回を主催されました。その後 18 年の歳月が経過し、このたび再び日本で 3 度目の IPS となる第 18 回国際視野学会が、2008 年 5 月 21 日から 24 日の日程で、奈良県新公会堂にて開催されました。

奈良県新公会堂

私といたしましても、国際視野学会の学会長という大役を命じられ、世界の IPS のメンバーに満足していただける学会を目指して学会運営に尽くして参りました。おかげさまで 19 カ国から計 200 名を超える参加者をお迎えし、無事、成功裏に学会を終えることができました。ここでは、本学会の準備期間から学会当日までを、苦労話も少し交えて報告させていただきたいと思います。

## ２．開催場所の選定

国際視野学会を日本に勧誘するにあたり、まず開催地を決めなければならなりません。国際学会の性格上、やはり日本古来の文化をお伝えできる場所ということで、最終的に奈良を選定しました。今回の学会場である奈良新公会堂は、大仏殿の近くに位置する奈良公園内のたいへん優雅で美しい施設です。特に能舞台のある能楽ホールは、学会中は舞台の目付柱を外すことができるなど、学術発表への転用を見据えた設計となっております。

能楽ホール

今から 10 年以上も前、日本で再び IPS が開催されることになるなど夢にも思っていなかったころ、第 2 回 ICG 蛍光造影国際シンポジウムがこの会場

で開催され、会場の美しさ、能舞台を使った発表のユニークさ、参加人数の規模などIPSにもぴったりの会場だなと、おぼろげながら私の記憶の片隅に残っておりました。奈良は、重厚な大仏殿、優雅な二月堂、華麗な春日大社、若草山山頂から広がる広大な古都の景色、自然豊かな飛び火野、原生林など、世界遺産に恥じない歴史的なスポットが徒歩圏内に多数あります。また神の使いとして崇められている、たくさんの美しい鹿が、とてもかわいいアクセントとして奈良の自然を引き立てています。奈良は私の出身地でもあり、学生のころからカメラ片手に奈良の自然を撮影し、自分で現像、引き伸ばしを楽しんでいました。このころの経験も、今回の学会に少なからず役立ったのではと思っています。

### ３．日本への国際視野学会の勧誘

国際視野学会は、2 年前の同学会にて次期開催国が正式に立候補し決定承認されます。(次回からは準備期間が少なすぎるとの理由で 4 年前に変更となりました。）我々の場合も、約 4 年前から日本開催を目指し、学会場や会期の選定、開催費用などの検討を行ってきました。さらに、日本への勧誘をアピールするため、おそらく IPS では初めてとなる、趣向をこらした勧誘 DVD を作成しました。その中には、今学会のテーマでもあります能のシーンも入っているのですが、記録ビデオを一部借用したため、演技されているすべての演者に書面での承諾書が必要となり、大変手間がかかりました。非常にインパクトある DVD を作成していただきました松田浩一様（ホール・クリエイション）には終始大変お世話になりました。苦労の甲斐あって 2006 年度の米国ポートランドでの学会にて、学会員満場一致で日本での開催が決定しました。

### ４．コングレスキット

今回の国際学会では、レセプション時にお配りするコングレスキットも工夫させていただきました。最近の国際学会では、さまざまなバッグ、リュックサックが配られるのですが、どうしてもかさばってしまい、帰りに捨てられてしまうケースも散見します。せっかく日本で開催されるIPSですので、今回は特注の藍染のカバンを用意させていただきました。藍染の柄に関しては、みんなで工場まで出向き、100 本以上の反物を並べて、図柄を選びました。それぞれの図柄に意味があることを職人の方に教えていただき、最終的に IPS のロゴ入りで 4 つの絵柄を用い作成し、好みで選んでいただくこととしました。また、それぞれの絵柄の意味を訳した英文の説明書を作成し、同封させていただきました。

登録受付と藍染のコングレスバッグ

抄録は、和紙をイメージした美しい用紙を用い、日本的なデザインで作成させていただきました。また、お土産として IPS のロゴ入りの手ぬぐいも同封させていただきました。

コングレスキットの中の目玉は、輪島塗の富士山がデザインされた 1Gbyte の USB フラッシュメモリで、その中に今回を含め第 1 回目から 18 回目まですべての抄録を PDF 化したデータを入れてお配りしました。また当時の貴重な写真も多数同封いたしました。これら多くの貴重なデータは第 1 回目からすべての IPS に参加されている可児一孝先生（川崎医療福祉大学）に提供していただきました。また、最終的な細かな画質修正は、教室の教授秘書である山田奈津子さんに会期ぎりぎりまで手作業で多大な労力をかけて行っていただきました。

## ５．学術講演について

今回の学会では、一般演題は 60 演題、うち口頭発表が 32 題、ポスター発表が 28 題採用されました。内容的には、視神経乳頭や網膜神経線維の画像解析に関する演題が 6 題、構造と機能に関する演題が 9 題、新しい視野検査技術に関する演題が 18 題、臨床症例を含めた視野の臨床に関する演題が 9 題、視野の検査方法の比較に関する演題が 7 題、視野測定結果の各種解析に関する演題が 6 題、進行解析に関する演題が 5 題でした。プログラム編成は IPS secretary の David Henson 先生と我々組織委員で最終調整が行われました。IPS では伝統的に、口頭発表のみならずポスター発表でも壇上で質疑応答を十分時間をかけて行うスタイルをとっており、今回も各演題に対し活発なディスカッションがなされました。

Opening remarks での御挨拶

特別講演は、IPS Lecture として Fritz Dannheim 先生が、『The Evolution of the Optic Disc Analysis: Past, Presence and Outlook』と題して、視神経乳頭解析の歴史に関する素晴らしい講演をされました。また今回から新しく設けられた Aulhorn Lecture では Anders Heijl 先生が『How Better Perimetry Can Improve Glaucoma Management』と題して、最新の解析プログラムを用いた視野による緑内障管理について御講演されました。Aulhorn Lecture に関しましては、最終プログラムのホームページ掲載の 1 週間前に急遽追加が決定されため、プログラムの総入れ替えとなり、タイムテーブルの修正に苦慮いたしました。しかしながら、結果的に IPS にふさわしい機能と構造の両面からの素晴らしい特別講演をいただくことができ、本当によかったと思います。

Fritz Dannheim 先生の IPS Lecture

Anders Heijl 先生の Aulhorn Lecture

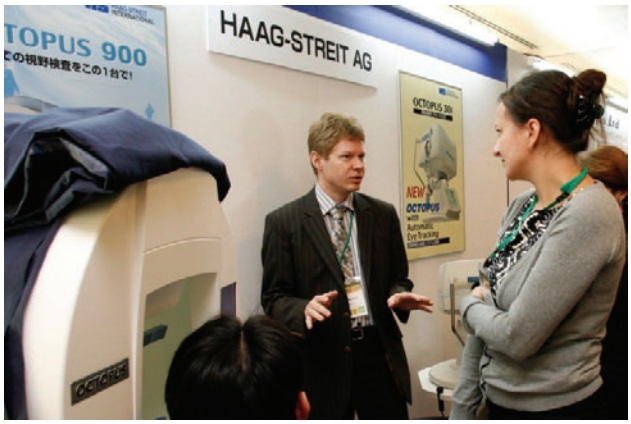
一般講演、特別講演はすべて新公会堂 1 階の能楽ホールで開催されました。能舞台にスクリーンを設置しての発表は、海外の先生方にも大変好評でした。また能舞台は土足厳禁のため、演者、モデレータの先生方には靴を脱いでスリッパに履き替えて、壇上に上がっていただきました。日本のちょっとした文化の違いに、みなさん驚きながらも楽しまれている様子でした。

協賛企業によるモーニングセミナー、ランチョンセミナーはそれぞれ 3 回ずつ、計 6 回開催いたしました。これらのセミナーは、食事のできる 2 階のレセプションホールにて開催しました。どの

セミナーも質の高い内容で、参加の皆様に楽しんでいただけることができたと思います。

レセプションホールでのモーニングセミナー

ポスター展示




機器展示

また、会場前のフロアーでは、ポスター展示と11 社の企業が機器展示ブースを構え、多くの視野測定や画像解析に関する最新の医療機器が出展されました。

2 年前に能楽ホールでの開催を計画した時は、公的建造物である奈良県新公会堂は、朝 9 時からの開演しか認めていただけず、プログラム構成上たいへん困っていたのですが、最終的に 8 時からの開演の許可を得ることができ、時間的に余裕のあるプログラムを作ることができました。関係者の皆様には深く感謝いたします。

## 6．同時通訳の導入

国際学会の場合、公用語は英語となります。第 1 回目のマルセイユではフランス語への通訳もあったと聞いていますが、基本的にすべての発表、質疑応答は英語で行われます。過去の IPS に参加して強く感じるのですが、日本人の発表者にとってこの英語での質疑応答は大きな難関となります。発表は、十分準備して素晴らしい質の高い内容なのですが、質疑応答になると残念ながら質問の内容が理解できず、撃沈してしまうケースを数多く見てきました。

演者に質問する Chris Johnson 先生（右）と Linda Zangwill 先生（左）

今回はせっかく日本での開催ということで、英語から日本語への同時通訳をすべての発表で行うことにしました。事前にすべての演者との打ち合わせが必要など多大な手間と、費用もそれなりにかかりましたが、今までになく多くの若い日本の演者が質問内容を把握され、最終的にご自分の英語でしっかり応答されていたように思います。また会場内でも多くの日本人の参加者の皆様に、

やや専門的になる内容をより深く理解していただけたと思います。

## ７．各種社交行事について

国際視野学会の場合、『よく学び、よく遊び』の言葉にもありますように、1 会場全員参加型の非常に充実した学術講演、活発な質疑応答とともに、開催国が趣向を凝らしたさまざまな社交行事も皆で共に楽しみます。私たちも前回までは、参加して楽しませていただいてばかりでしたが、今回は主催国ということで、各方面の皆様のご協力のもと、さまざまな企画を立てさせていただきました。

今回社交行事を企画して最も心配したことの一つに天候があります。多くの行事が天候に大きく左右されるためです。しかし、これだけはどうしようもありません。学会の 2 週間前から何度も天気予報を調べようとしたのですが、実は日本の気象庁は 1 週間より先の日ごとの天気予測を禁止していることを初めて知りました。まったく当てにならないからだそうです。でも海外には 2 週間先までデータを出しているサイトがあるので、毎日チェックしていましたが、雨になったり晴になったりやはりまったく当てになりませんでした。祈りが通じたのか、最終的には天候にも恵まれ、すべての行事を予定通り行うことができました。

### 1）Board dinner

20 日に開催された Board dinner では、奈良の老舗料亭である菊水楼の大広間にて純日本風の食事を体験していただきました。ボードの先生方はお互い気心が知れているのですが、独特の雰囲気と慣れない日本食、畳の上での辛い姿勢で、みな若干緊張気味でした。私を含めこちらのスタッフも全員緊張気味で大変でしたが、素晴らしい雅楽の音色を聴くころには、徐々に皆リラックスされ日本の文化を楽しまれていました。

菊水楼にて

### 2）Welcome party

翌日の 21 日の Welcome party は、会場の新公会堂の裏手の美しい日本庭園でガーデンパーティー形式にて行われました。もし雨が降ると予備のレセプションホールへ移動しなければならなかったのですが、幸いに清々しい好天に恵まれ、素晴らしいガーデンパーティーを行うことができました。

総合司会の重責を任された丸山耕一先生（近畿大学）は、初めての英語の司会とのことでしゃべる内容をすべて忘れてしまい大変緊張されていましたが、海外の参加者の先生方の温かい声援と持ち前のジョークで無事切り抜けることができました。

Welcome party で緊張気味の丸山耕一先生

おかげさまで緊張気味の私もずいぶんリラックスすることができ、開会の御挨拶で、この学会に対する私たちの熱い思いを十分お伝えすることができたと思います。

Party の後半では、和太鼓による力強い演技を披露し、演奏の後半では参加者の皆様にも演奏に加わっていただき和楽器のすばらしさを楽しんでいただきました。

和太鼓を楽しむ Michael Wall 先生（左）と Chris Johnson 先生（右）

3）若草山と Japanese dinner

22 日は参加者の皆様に畳の上での懐石を経験していただく企画として、若草山山頂付近にある旅館平城にて Japanese dinner を開催しました。さらに、会場へ行く途中にバスで若草山の山頂へ上がり、古都奈良の絶景を楽しんでいただきました。この山頂からの景色は大変素晴らしく、かつあまり人にも知られておらず、私の最も好きな場所の一つでしたので、2 年前から周到に計画していたのですが、昨年民放で『鹿男あをによし』という奈良を舞台としたドラマが放映され、この隠れた絶景ポイントが大々的に放映されてしまいました。主演の玉木宏と綾瀬はるかが初回と最終回でここを訪れ『奈良のここからの景色が最も好き』などとばらしてしまったので若いカップルでいっぱいになってしまいました。学会参加者の大群でここを訪れ、たくさんのカップルの邪魔をしたらどうしようかと心配したのですが、当日の夕刻は平日とのこともあり、皆さんに遠慮なく古都の絶景を楽しんでいただくことができました。

若草山山頂にて

平城では琴と尺八の演奏を楽しみながら、美しい懐石料理を楽しんでいただきました。また宴の後半では、日本の琴に直接触っていただき、きれいな和の音色を直に楽しんでいただきました。

乾杯の音頭をとる岩瀬愛子先生

琴を楽しむ Chris Johnson 先生

今回の学会では、藍染の説明カード、雅楽の説明文、能の説明文、和食の英語メニュー、USB

フラッシュメモリの説明カードなどは、すべて医局内で、和紙の購入から印刷を含め手作業で行いました。国際秘書の田原玲蓉さんをはじめ、医局秘書の皆様の協力で本当に心のこもったおもてなしができたと感謝しております。特に、平城の和食メニューに関しては、翻訳に困り、旅館へ電話をして素材の確認も行いました。

### 4) 鹿寄せ

23 日は、早朝 7 時半から飛び火野で『鹿よせ』を楽しんでいただきました。『鹿寄せ』とは、本来奈良の冬の風物詩で、食料の少ない時期にホルンの音色で鹿を集め、どんぐりや芋などのえさを与える行事です。ホルンの音色につられて、たくさんの鹿が森から飛び出してくる姿は壮大なものがあります。冬場は毎日行われていますが、5 月は、依頼があるときのみ開催していただけます。ただし、普通は 9 時や 10 時ごろからとのことで、学会と時間調整に苦慮しておりましたが、奈良県眼科医会の石橋俊介前理事長の御尽力で、特別に朝 7 時半から開催していただけることになりました。

『鹿寄せ』のホルン

ところが、ここでもまた心配ごとが生まれました。先にも触れました『鹿男あをによし』が放映され、そのエンディングテーマにのって『鹿寄せ』の荘厳なシーンが毎週放映されてしまいました。これを見て、冬場に全国から多くの観光客が『鹿寄せ』を見に飛び火野を訪れ、時には鹿より人間の数のほうが多くなってしまい、鹿が怖がって出てこなくなってしまったのです。当日も事務局の方から、100% 出る保証はないと言われ大変心配しておりました。最初、係の方がホルンを吹きましたが、一向に鹿が出てくる気配がありません。何度か吹いても一向に鹿が出てこないので、ついに係の方も今日は鹿はお休みかなどと寒いことを言い出しました。早朝に皆をたたき起こして、ここまで歩いて連れてきているのに、もし何も起こらなかったら英語でどうお詫びをしようかと悩んでいたところ、4 度目のホルンの音に合わせて、森の奥から 1 匹の小鹿が飛び出してきました。そしてその小鹿に続いて、ホルンの音色に乗って鹿が 2 列で次々ジャンプしながら行進してきました。参加者の皆様から感嘆の声が上がりました。

ホルンの音に合わせて森から駆け出る鹿たち

実は今回の学会期間を通じて、これほど、ほっとした瞬間はありませんでした。早朝の『鹿寄せ』を皆で堪能したのち、モーニングセミナーの会場へ向かいました。

『鹿寄せ』を楽しむ参加者

5）能

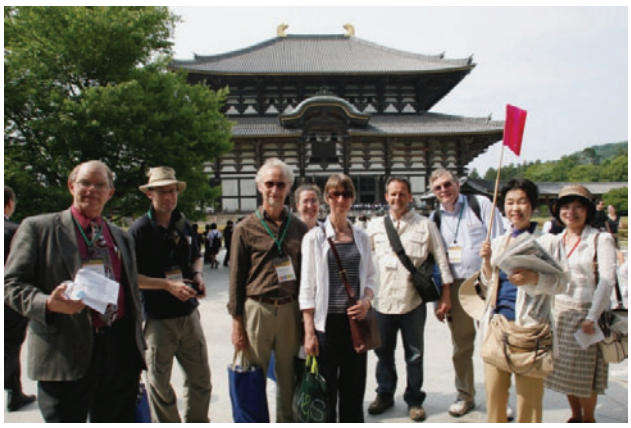
この日は、2 階のレセプションホールでランチョンセミナーを行っている合間に、能楽ホールを能舞台へ展開し、本格的な能『羽衣』を披露いたしました。

能『羽衣』

演目が始まる前に、会場から数名の先生に自ら舞台に上がっていただき、能面を付けるといかに視野が狭くなるかを身をもって体験していただきました。そして能舞台の目付柱は、能面からの狭い視野を補うためにあることなどが解説されました。国際視野学会にふさわしい余興と皆楽しんでいただきました。

6）Walking tour

午後からは、10 名ほどの小グループに分かれ、それぞれ英語、ドイツ語、スペイン語、日本語などのガイド付きで奈良公園内 Walking tour を開催しました。



大仏殿の前で

大仏殿、二月堂、春日大社などを観光し、日本の歴史ある文化に触れていただきました。好天に恵まれ、汗ばむ陽気となりましたが、皆終始、古都奈良を堪能していました。

7）Closing banquet

最終日の 24 日の夜は、IPS 好例の Closing banquet がホテル日航奈良で開催されました。IPS 副会長の Chris Johnson 先生、北澤克明先生（赤坂北澤眼科）から温かいお言葉をいただいた後、海外の先生方に法被を着ていただき日本の伝統的な鏡割りを行いました。Fritz Dannheim 先生がフライングで先に樽を割ってしまう一幕もありましたが、無事 Anders Heijl 先生の音頭で IPS 焼印入りの升にて乾杯、Closing banquet が始まりました。Closing banquet では、有村英子先生（近畿大学）が華麗な和装で、すばらしい総合司会を務めていただきました。

Closing banquet での鏡割り

Closing banquet で司会をする有村先生

升酒で乾杯される北澤先生ご夫妻

食事も一段落したあと、好例の国別歌会が始まりました。IPS では、毎回 Closing banquet にて参加者が国別にそれぞれ舞台に上がり、母国の歌やパフォーマンスを披露します。

歌を披露する次期学会長の
Manuel Gonzalez de la Rosa 先生

毎回、舞台にはグランドピアノが必須です。さらに今回は、直前にある国の先生からギターを貸してほしいと言われ奈良市内を探しまわり、何とか探し出す一幕もありました。米国は好例の Chris Johnson 先生がプロ顔負けの素晴らしいピアノ演奏を披露しました。

各国それぞれ大いに盛り上がったあと、最後は日本の番です。私たちは毎回 IPS で、日本古来の伝統的なパフォーマンスを披露してきたのですが、今回は、木村泰郎先生（上野眼科医院）の指揮のもと、全員で『さくらさくら』『幸せなら手をたたこう』を熱唱しました。

Closing banquet で歌う日本からの参加者

次に、岩垣厚志先生（岩垣眼科）のアイデアで日本刀を用いた伝統的な殺陣（たて）を披露しました。軽快な時代劇の音楽とスポットライトを浴びて、正義の侍に扮した橋本茂樹先生（近畿大）が舞台後方から現れ、から傘を華麗に投げ捨て、壇上へかけあがりました。

橋本先生の華麗な演技

そして岩垣厚志先生扮する悪代官を見事な太刀さばきで切り捨て拍手喝さいとなりました。

引き続き、IPS 会長の Michael Wall 先生を壇上へ上げて、侍の衣装を着せ、殺陣を真似していただきました。見事悪党の岩垣悪代官をバッサリ切りつけ拍手喝さいとなりました。

岩垣先生と Michael Wall 先生の殺陣

そして最後は、3本締で幕を閉じました。この日は、私自身も生まれて初めて皆様方のスタンディングオベーションをいただき、いったいどんな顔をしていればいいのかわからずとても困ってしまいました。でも大変名誉あるありがたいことと感謝しております。

**最後に**

今回、第 18 回国際視野学会を成功裏に開催できましたのも、本当に多くの皆様方のご支援があってのことと深く感謝しております。2 年間にわたりアドバイザリー組織委員を引き受けていただきました故北原健二先生（東京慈恵会医科大学）、北澤克明先生、大鳥利文先生（近畿大学）、可児一孝先生、下村嘉一先生（近畿大学）、実行委員の労を引き受けていただきました岩瀬愛子先生（多治見市民病院）、山崎芳夫先生（日本大学）、鈴村弘隆先生（中野総合病院）、高橋現一郎先生（東京慈恵医科大学）、中野　匡先生（東京慈恵会医科大学）、奥山幸子先生（近畿大学）、丸山耕一先生、組織員をお引き受けいただきました日本視野研究会の諸先生方、IPS のメンバーならびに学会に参加いただいたすべての皆様、奈良県眼科医会、大阪府眼科医会の諸先生方、セミナー開催ならびに機器展示で多大な協力をいただきました各医療機器、製薬会社の皆様方、近畿大学ならびに医局員、同窓会の皆様方、若山暁美さんら視能訓練士、視野検査員、秘書をはじめとするスタッフの皆様方、学会運営を円滑に進めていただきましたコングレのスタッフの皆様に本当に深く感謝いたします。

今回の第 18 回国際視野学会をもって IPS の名称が、International Perimetric Society から Imaging and Perimetry Society へ変更されることが正式に決定されました。今日の機能と構造に関するトレンドを踏まえた命名変更です。

そして 2010 年 3 月 23 日から 26 日には、スペインのカナリア諸島 Tenerife で Manuel Gonzalez de la Rosa 先生の学会長のもと第 19 回 IPS が開催されます。今までは、異国の地へ行き学会に参加、発表することが楽しかったのですが、次回からは、主催国の御苦労が手に取るようにわかり、これまでとは異なった形で学会参加ができるのではないかと思います。カナリア諸島は、大変自然の美しい所ですので、ぜひ、皆様方も多数参加していただき、IPS2010 を盛り上げていただければと思います。

奈良県新公会堂前で

写真の説明

| | |
|---|---|
| 写真 1 | 奈良県新公会堂 |
| 写真 2 | 能楽ホール |
| 写真 3 | 受付と藍染のコングレスバッグ |
| 写真 4 | Opening での御挨拶 |
| 写真 5 | IPS Lecture を講演されている Fritz Dannheim 先生 |
| 写真 6 | Aulhorn Lecture を講演される Anders Heijl 先生 |
| 写真 7 | レセプションホールでのモーニングセミナー |
| 写真 8 | ポスター展示 |
| 写真 9 | 機器展示 |
| 写真 10 | 演者に質問する Chris Johnson 先生 （右）と Linda Zangwill 先生 （左） |
| 写真 11 | 菊水楼にて |
| 写真 12 | Welcome party で緊張気味の丸山耕一先生 |
| 写真 13, 14 | 和太鼓を楽しむ Michael Wall 先生 （左）と Chris Johnson 先生 （右） |
| 写真 15 | 若草山山頂にて |
| 写真 16 | 乾杯の音頭をとる岩瀬愛子先生 |
| 写真 17 | Japanese dinner で琴を楽しむ Chris Johnson 先生 |
| 写真 18 | 『鹿寄せ』のホルン |
| 写真 19 | ホルンの音に合わせて森から駆け出る鹿たち |
| 写真 20 | 『鹿寄せ』を楽しむ参加者 |
| 写真 21 | 能『羽衣』 |
| 写真 22 | 大仏殿の前で |
| 写真 23 | Closing banquet での鏡割り |
| 写真 24 | Closing banquet で司会をする有村先生 |
| 写真 25 | 升酒で乾杯される北澤先生ご夫妻 |
| 写真 26 | Closing banquet で歌う日本からの参加者 |
| 写真 27 | 歌を披露する次期学会長の Manuel Gonzalez de la Rosa 先生 |
| 写真 28 | 橋本先生の華麗な演技 |
| 写真 29 | 岩垣先生と Michael Wall 先生の殺陣 |
| 写真 30 | 奈良県新公会堂前で |